



ぶらり らいぶらりい



～図書室にはこんな本があります～

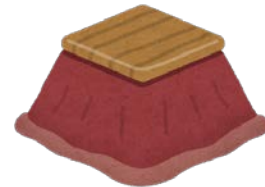
No. 194

*利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

問1) 昔のこたつについて知りたい。

答) 全資料 → ことばから探す → こたつ → 82件
全資料 → ことばから探す → 炬燵 → 111件

- 『くらべてみよう！昭和のくらし3』(382/N88/3) 開架書棚
- 『日本の家電製品』(545/Sa83) 開架書棚
- 『昔のくらしの道具事典』(383.9/Ko12) 開架書棚
- 『くらしの今昔』(383.93/H68) 閉架書庫



問2) 雑誌でこたつについて書かれたものを読みたい。

答) 雑誌 → ことばから探す → こたつ → 41件
雑誌 → ことばから探す → 炬燵 → 67件

- 『主婦と生活 第13巻第10号付録(昭和33年10月)』
(051/Sh99/Z13-10) 閉架書庫
- 『それいゆ No. 28(昭和28年11月)』(051/So55/28) 閉架書庫
- 『婦人朝日 第13巻第11号 = 第154号(1958年11月)』
(051/F64/13-11) 閉架書庫

これらの雑誌では、こたつカバー、こたつ布団の作り方などが掲載されています。

関連ワード：あんか、練炭こたつ

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

「将棋こそ本当の民主主義」 ～棋士・升田幸三（1918～1991）～

コンピューターと人間が対局する「電王戦」、村山 聖^{きよし}さんの生涯を描いた映画『聖の青春』、少年棋士が主人公のコミック『3月のライオン』等々…。近年、将棋の人气が再燃しています。終戦後、剣道や柔道といった武道のほか、歌舞伎などの伝統文化に対しても日本の「民主化」「軍国主義の払拭」を理由に、GHQ（連合国軍最高司令部）より規制が加えられていたことは知られていますが、将棋についても以下のような話があります。

昭和22年（1947）、日本将棋連盟で関西本部長代理だった升田幸三七段（当時）がGHQより有楽町に呼び出されました。「将棋は相手の駒を自分の兵隊として使用する。これは捕虜の虐待であり、人道に反するものではないか」と批判するGHQに対し、升田七段、答えて曰く。

「冗談をいわれては困る。チェスで取った駒をつかわんのこそ、捕虜の虐殺である。そこへ行くと日本の将棋は、捕虜を虐待も虐殺もしない。常に全部の駒が生きておる。これは能力を尊重し、それぞれに仕事場を与えようという思想である。しかも敵から味方に移ってきても、金は金、飛車なら飛車と、元の官位のままで仕事をさせる。これこそ本当の民主主義ではないか。」

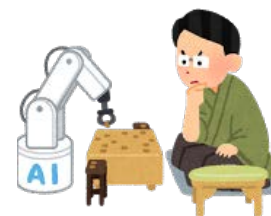
（『文藝春秋』第88巻 第2号「昭和の肉声60人」より抜粋）

このエピソードは、升田氏本人による自伝『名人に香車を引いた男』で「GHQ高官の度肝を抜く」として紹介されているもので、将棋を題材にしたコミック『月下の棋士』でご存知の方もおられるでしょう。実際に将棋のルールが民主主義的であるかはさておき、「ホラ吹き升田」（本人談）らしい豪快さと破天荒さを物語るエピソードですね。

「魅せる将棋」にこだわり、常に「新手一生」を掲げて「振り飛車」「居飛車」等の新手を編みだす名手として高名な一方で、「名人に香車を引いて勝つ」をはじめとした名言の数々から「陣屋事件」といった騒動まで、将棋のみならず、その人物像や言動のユニークさで今も人気の高い升田氏ですが、20代の頃に2度の徴兵経験があり、昭和19年に送られたトラック諸島の過酷な状況下で胃腸を患ったことが元となり、晩年は病に悩まされる日々が続きました。

昭和館図書室では、『文藝春秋』『週刊朝日』等、升田氏についての特集や本人へのインタビュー記事を掲載している雑誌を所蔵しています。

ぜひ、お手にとって、「昭和の棋士の生きざま」にふれてみてください。



一図書室からのお知らせ一

図書室内のハングオールで「日本国憲法公布70年」に関する資料を紹介しています。どうぞご利用ください。

ぶらりらいぶらりい～図書室にはこんな本があります～ NO. 194

2016年10月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1